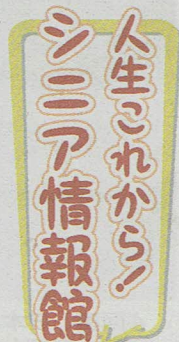




幸齢社会



シニアライフアドバイザー

松本すみ子

ある老人ホームで暮らす知人のお母さんは「毎日、童謡ばかり歌っていて、つまらない」と不満を漏らしているとか。聞けば、好きな音楽はクラシック。童謡以外の音楽にも触れたいと感じているようです。

確かに、若い世代の中には、「高齢者が好きな曲は、童謡」と思い込んでいる人もいます。

好きな音楽

しかし、例えば団塊の世代が若い頃に親しんだ音楽は、ジャズやフォーク、ビートルズにグループサウンズなど。映画音楽が好きだった人もいます。

童謡は学校で習った曲なので嫌いではないのですが、より親しんだ歌を楽しみたいと思うのではないでしょう

か。いつまでも「高齢者には童謡」といった考えでは、多様なニーズに対応できないと言えます。

以前、「ザ・デイスーパー・シヨウ」というミュージカルを見ました。舞台の設定は高齢者が通うデイスーパーで、歌うのはいつも童謡・唱歌。ある日、施設を訪れた人が、

ニーズをくみ取るアンテナ

利用者はプレスリーやロックを聴いていた世代で、歌いたい歌が違うのではないかと気が付きます。ただ、スタッフは高齢者へのイメージが偏っていて、その意見を聞き入れません。ところが、認知機能に障がいのある、おじいさんがいつも口

ずさんでいる曲はロックだといことが分かります。「ギターを弾ける」と手を挙げるおじいさんも登場。本当に好きなものを歌うことで、若々しさを取り戻して生き生きする「痛快ミュージカル」です。

うまくいくとは思いませんが、年を重ねて体が弱って

も「したいこと・できること」は誰にでもあり、今まで生きてきたプライドもあります。

大切なことは「お世話されるだけではなく、生きる張り合いがほしい」といった高齢者の気持ちをくみ取る、周囲の敏感な「アンテナ」なのです。

